



【理念】

「愛し愛される病院」

【基本指針】

- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
- 1、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 1、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 1、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 1、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
- 3、患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

ごあいさつ

あけましておめでとうございます。

杉並リハビリテーション病院が101全ベッド回復期リハビリテーション病棟になり、12回目、令和最初のお正月を迎えました。

回復期リハビリテーション病棟は、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血などの脳血管疾患や大腿骨頸部骨折などの患者さまが、日常生活動作が安定向上され、安心して自宅にもどられ、さらに社会参加していくために、集中してリハビリテーションを行う病棟です。

皆様に“元気になって帰れます、ありがとう”と言ってもらえる病院を目指して、必要かつ望まれているリハビリテーションを提供することを念頭において、365日毎日休むことなく、皆様のリハビリテーションに取り組んでいます。

患者さまご家族の皆様ならびに地域から信頼され、地域に貢献する魅力ある元気な病院として、「愛し愛される病院」の理念の下、職員一同、今年も元気いっぱい、熱い思いで取り組んでまいります。

「認知症？」と思うようになったご家族と患者さまに

当院に入院している患者さまのご家族から、「入院して認知症ではないかと言われた」「前の病院で落ち着かなくなって暴れてしまった」「病気をしておかしくなると言うようになった」など、入院あるいは病気の発症を機に認知症になったのではないかと心配や不安の声を聞くことは少なくありません。「自宅で生活していた時、物忘れはあったけれどもそれなりに自分のことは自分でしていたから大丈夫だと思っていた」「どう関わっていいかわからない」というお話もよく聞きます。

認知症の人から見た入院・治療

入院という環境の変化

中核症状：
記憶障害、見当識障害、
実行機能障害、
社会的認知の障害

不随する精神症状：抑うつ

身体症状：痛み、口渇、空腹、
便秘苦痛をうまく伝えられない

社会関係：初めて出会う
スタッフ、スタッフの交代
家族との分離・孤立

治療環境：複雑な支持
慣れない環境
カテーテル
転棟・移床
モニター

**不安・緊張
恐怖・混乱**

基本知識編-35



認知症という病気は、急に発症するものではなく、年齢とともに徐々に徐々に進行していくことは皆さまご存知かと思えます。病気や入院をする前から、もしかしたら認知機能が低下していた状態であったのかもしれませんが。自宅で自立した生活を送ることができていたのは、“住み慣れた地域の、住み慣れた環境”であったことが大きいです。歳を重ねるにつれて短期記憶が低下し、最近の出来事を覚えづらくなります。しかし、長期記憶である、エピソード記憶や手続き記憶といった、長い間かけて培ったことや関わり、慣れている動作は覚えているものです。住み慣れた自宅の環境は、最近の出来事を忘れてしまっても、慣れ親しんだ物の使い方や動作を身体が覚えているために、あまり助けを借りずに生活できていることが多いです。また、家族やご近所の方々といった安心できる人のいる環境や地域という強みもあります。

患者さまご本人の行動に対して、心配したり不安に感じるご家族や、せん妄や行動心理症状が出現している患者さまのご家族へは、声を掛けさせていただいています。せん妄や行動心理症状が出現している患者さまのご家族には、その方の症状や状態、基本的な関わり方をお伝えしながら、対応方法についてご家族と一緒に考え、入院生活の状況を共有しています。はじめは戸惑っていたご家族も、スタッフの関わり方を見て、本人の変化を感じることで少しずつ関わりが変化していきます。病気による身体的な変化や入院に伴い認知機能が変化すると今までの生活を営むことが難しくなりますが、その方の身体機能と認知機能に合わせたセルフケアの再獲得を看護師もセラピストも同じ目標を持って支援しています。患者さまお1人お1人の認知機能の持てる能力が発揮でき、その新しい生活方法が“住み慣れた環境”となるようアドバイスさせていただくこともあります。ご本人さまが生活に慣れ、笑顔や穏やかな表情を見ることがご家族の一番の安心に繋がります。認知症看護認定看護師としてできるご家族へのサポート、ご本人さまへの支援をこれからも行っていきたく思います。

高次脳機能障害者支援の難しさ

脳梗塞や脳出血、頭部外傷など脳に損傷を受けると、その後遺症として『高次脳機能障害（記憶障害・注意障害・遂行機能障害など）』という外見からは分かりにくい障害が残ることが少なくありません。例えば、記憶が悪い（物をどこに置いたか忘れいつも探し物をしている）、注意が続かない（一つのことに集中できず注意散漫となる）、段取りを組んで計画的に作業を進められない、という状態は障害と気づかず過ぎてしまうこともあります。特に入院生活は、食事は出される、掃除やベッドメイクはしてもらえ、起床から就寝までスケジュールが決まっている、など生活がシンプルであり受け身で過ごせるため高次脳機能障害による問題は起きにくい環境です。

ところが一旦退院すると、特に一人暮らしの場合は自ら行動しない限り生活は回りません。家族と暮らしている場合、家の中の生活は世話してもらえても一歩外へ出て社会生活を送ろうとすると、例えば、人との待ち合わせ時間に間に合わない、待ち合わせ場所に辿り着けない、約束自体覚えていない、などの問題が現れ始めます。

このように退院後起こる問題に備え、入院中から高次脳機能障害について理解を深められるよう患者さま・ご家族へ知識としての情報提供を行い、困ったときの相談先について知らせておくことが私たちの役割です。しかし、起きていない問題を先回りして説明してもピンとこないのが当然、自分は大丈夫と思う方も多く、逆に過剰に不安を与えてしまう恐れすらあります。退院後リアルタイムに支援できる体制を整えておくことが非常に重要です。そのためには、患者さま本人・ご家族の近くにいる方（知人、隣人、同僚など）へもこの障害について知ってもらうこと、何かおかしいなと思われた時に心配ながらも何もできず、放置し、関係が途切れる、という方向ではなく公的な相談先へつないでもらえるよう適確な情報提供をしていくことも私たちの役割です。



地域連携相談室 ひろかわさとみ 廣川里美

◀ 11月29日慶應義塾大学にて、
杉並区・中野区・新宿区の高次脳機能障害支援普及事業研修会が開催され、当院より言語聴覚士と医療ソーシャルワーカーが講演しました。

患者さまの声

（接遇委員会より）



・病気がだめだと思っておりましたら声とか言葉が話せるようになり非常に感謝しております。皆様どこにいても家族に声・挨拶をしてくださり心よりお礼申し上げます。食事も一口も食べられなかったのに自分で食べられること、本人に代わってお礼申し上げます。このことは一生忘れません。

・リハビリ・看護は老人に合わせてくれてとてもよかったです。特にできないことばかりの人たち相手に、「できないから」ではなく「これができるから」という言い方が大変心にしみました。前向きになれる。具体的なアドバイスも得ることができました。看護・介護も大変ですが頑張ってください。スタッフさんの「できることを残す、のぼす、できないようにさせない」という精神が伝わってきました。

（原文のまま掲載しております）

貴重なご意見ありがとうございました！

◆ 令和元年9月～12月入院患者数と紹介元医療機関

9月から12月の4か月間における新入院患者は147名、紹介元医療機関は以下の通りです。
(順不同、敬称略)

大泉生協病院、大久保病院、荻窪病院、河北総合病院、杏林大学医学部付属病院、久我山病院、慶應義塾大学病院
厚生中央病院、国立国際医療研究センター病院、桜町病院、佐々総合病院、順天堂大学医学部附属練馬病院、滝山病院
立川中央病院、田中脳神経外科病院、東京医科大学病院、東京医療センター、東京衛生アドベンチスト病院、
東京警察病院、東京西徳洲会病院、東京山手メディカルセンター、東邦大学医療センター大橋病院、虎の門病院、
都立多摩総合医療センター、日本大学医学部附属板橋病院、練馬光が丘病院、浜田山病院、一橋病院、福島赤十字病院
保谷厚生病院、武蔵野赤十字病院、目白病院、山中病院、立正佼成会附属佼成病院 他一か所

以上、35か所ご紹介ありがとうございました。

～当院の現況～

	2019年10月	2019年11月	2019年12月
病床利用率	97.5%	95.7%	96.8%
入院延べ患者数	3,092人	2,942人	3,074人

在宅復帰率(直近3ヶ月)…92.7%

重症患者割合(直近6ヶ月)…37.0%

重症患者回復病棟改善割合(直近6ヶ月)…52.3%

※日常生活機能評価で10点以上の新規患者割合
※重症患者のうち4点以上改善している者の割合

交通のご案内



編集後記

回復期リハ病棟における課題のひとつに今回取り上げた認知症や高次脳機能障害へのかわりが見られます。当院では、平成27年度に認知症看護の認定看護師を輩出し、課題へのチームアプローチを開始しております。そんな活動をご紹介させていただきました。参考にさせていただけたら幸いです。

(編集委員)



医療法人社団 哺育会

杉並リハビリテーション病院

内科・リハビリテーション科

- 発行 行：杉並リハビリテーション病院
- 発行責任者：門脇 親房
- 編集 集：総務課

<http://www.suginami-reha-tokyo.jp/>

〒167-0042

東京都杉並区西荻北 2-5-5

TEL:03-3396-3181 (代)



facebook でも



最新情報を配信中♪